

# 松浦松江市長と 子育てお母さんが語る 待機児童問題!!

こんにちは。今“日本死ぬ”ブログをきっかけに待機児童問題が再度クローズアップされています。今日はこの点について、今まで子育て施策を進め「子育て環境全国3位」を作り上げた松浦松江市長と子育て課長さん。そして現役の子育て世代のお母さん方に来てもらい、お互いの現状などを意見交換したいと思います。



**佐伯** 2人の子どもがおり、現在下の子が生後4カ月で、職場復帰予定の2月からの保育所入所を希望している状況ですが、予約枠に落選してしまい、4月の時点で待機児童が発生していて、今後入るのはかなり難しいと聞いています。職場にも相談していますが、やはり2月から復帰してほしいと言われ、困っています。

**森脇** 今年の4月に広島から松江市にきました。希望する保育園に入所でき

なかったのですが、現在は幼稚園の預かり保育を組み合わせながら、子育てと仕事を両立しています。

## ■ 松江市の待機児童の状況

**野津** 現在の松江市の待機児童の状況はどうなのですか？

**林** 松江市はこの10年、待機児童の解消に努めてきて、平成25年から27年まで新年度4月の段階での待機児童0人を達成していたのですが、今年、再び待機児童が22人発生しました。

**中澤** 子どもの数は増えていませんか？なぜ、また待機児童が発生したんですか？

**林** 実は、**今年の4月から国が定める保育所への入所条件が大幅に緩和されて**、今まで保育所に預ける事ができなかった方も預ける事ができるようになったというのが大きいですね。

**中澤** 松江市の保育所のキャパシティは全国と比べてどうなのですか？

**林** 松江市でもニーズが高いのが0歳・1歳のお子さんの保育所入所です。0歳から5歳の受入れキャパシティは、全国は人口に対して40%前後なのですが、**松江市は59%と約20%前後、全国より高いのです**。それぐらい受入れは整備しているのにまだ足りないという現状です。

**中澤** それはどういう理由からですか？

**林** 子育て世代の働く女性の割合が、島根県自体が全国1位と高く、**松江市も共働き率が非常に高い**



▲ 左から松江市子育て課課長林さん、佐伯さん、森脇さん、松浦松江市長、「ねえみちよって」編集委員中澤、野津



のです。保育所の受け入れを増やせば増やすほど、保育所に入所の希望者が増えている状況です。

**佐伯** あと、4月を過ぎると保育所に入れなくなるのが分かっているから、少し無理をしても4月に入りたいというお母さんは多いと思います。けど、いくら4月からなら入りやすいと言われても、さすがに2カ月で預けるのは…。できませんでした…。

**森脇** 0歳の赤ちゃんを長時間預けて働き出すのは、心理的にも肉体的にもキツイと感じているお母さんが多いと思います。

**野津** 保育園に0歳の子どもを入れる競争みたいなものが生まれていますね。

**市長** そこが私も葛藤しているところです。本当ならお母さん子どもも、もう少し一緒に過ごして欲しい時期でしょう。一方で、共働きしないといけない経済的な状況があること、女性がキャリアを積んでいくことの必要性、人材不足になってしまう企業側の苦しい現状がある。どうすることが一番良いのか悩ましいですね。

**中澤** 今回窓口の方にも取材をしましたが、『4月以降どうしても“お断り課”になってしまっている状況が、本当に申し訳ない。お母さん方の気持ちを考えてととても心苦しい』とおっしゃっていました。

**林** 全ての保護者の皆さんの期待に応えたいのですが、現状では正直、応え切れていないのが辛いです。

**森脇** 広島で職場復帰をする際にも、一時は浜田の祖父母の元へしばらく里子に出そうか真剣に検討



待機児童0を達成するためには、行政と民間事業者の協力が不可欠

するほど、厳しい状況でした。松江も待機児童が出ていますが、それでもやはり全体的に見るとかなり子育て環境が良いと思います。窓口の担当者の方が本当に親身に相談に乗ってくださって驚きました。

**市長** 松江市は民間の保育所が広島に比べて多い印象はありませんか？

**森脇** たしかに、そうですね。

## ■ 松江市の保育所対策

**市長** 今まで松江は民間事業者さんや多くの市民と協力して、保育所を増やして待機児童問題を解決し、子育て環境を作り上げてきました。これを行政だけで直接に保育所を作ってしまうと、市の職員採用問題とか、施設管理とかの将来的な財政負担の問題が出てくるんです。**大切にしたい子どもたちに**

**逆に将来の「負の遺産」が残ってしまう可能性がある。**だから民間事業者さんの経営経験や知恵や力と一緒にやってきたわけです。

**市長** 民間事業者さんも保育士さんの確保の問題や、施設を大きくしてもらったり、苦しい中で非常に頑張ってください。保育士さんがいないと子どもも保育所に預ける事ができませんから。

**市長** ちなみに佐伯さんのお仕事はどこなのですか？

**佐伯** 今は勤務地が出雲なので、朝早く保育所に子どもを預けて、出雲まで通わないといけません。上の子（3歳）はすでに保育所に預けていて、例えば下の子が、もし来年、保育所に入れても、上の子と違う保育所だったり、すごく離れた場所になった場合は、無理で…

**市長** 兄弟で別の保育所に通わせるのは、厳しいですよね。現場の課として、何か良い解決方はないのかな。

**市長** 兄弟がいるというポイントをつけて優先順位を上げてはいるのですが、毎月申請を受け、査定し、決定までを15日前後で行う中で、全てのミスマッチの解消をするのが非常に難しいというのが現状です。本当は最初から同じ保育所にしてあげたいのですが…

**森脇** 希望する保育所に入れなかった人に「不承諾通知」が市から送られますが、すべて待機児童にカウントされるわけではないのですよね？

**市長** そうなんです。佐伯さんのように勤務地との兼ね合いなどで実際預けることが困難でも、市内に受け入れ可能な保育所がある場合はいわゆる自己都合で断る「不承諾扱いとなり、国のルールでは待機児童にカウントされないのです。



▲市から届く「不承諾通知」。保育園に入れられないことと厳しい書類名にダブルショック(「▽」;)!!がー

**佐伯** 私は不承諾通知が届いた時に、かなりショックと違和感を感じました。我が家では「**保育園落ちた通知**」と呼んでいます。

**市長** 確かに私たちも不承諾という呼び方についてはおかしいと思っていました。やっと国の方で呼び方を変更するようです。

**佐伯** もう少し、いろんな面から子育ての相談ができる環境があって欲しいと思います。相談の内容によって、橋南の子育て支援センター(乃白町・市立病院併設)とか、橋北の市役所子育て課(末次町)が良いのかとか、違いますよね?私もですが松江出身ではない方も多くおられて地理的な事や相談内容なども、どちらに行けばいいのかわからないお母さんも多いと思います。妊娠～出産～子育て～就労のことが1カ所で終わらないのが、相談するのに何となく行政との距離が「遠い」と感じる所かなと思います。相談の窓口を広げてSNSなどで気軽にいつでも相談できればいいなと思います。

## ▶ 「ねえ みちよって」これからの取り組み

**野津** 今回、「ねえみちよって!」でも新しい取り組み、紙面で実現可能な子育て支援策や待機児童問題についての政策提言を考えています。それと「日本死ね」問題のような、気持ちや言葉がスレ違う関係じゃなく、**子育て中のお母さんや行政のみなさん、お互いの感情が行き違わないように調和を図りたいですね。**

**森脇** 普通の私たちお母さんが直接に市長さんや課長さんと話せる環境がある事が松江ってすごいと思います。「ねえみちよって!」の編集委員さんみたいに企画してくれる人もいる事も凄いです。

**中澤** 今回の取材を通して、国の施策の変更など行政側の事情を初めて知ることも多かったです。お互いの事情を理解しようという意志を持って話し合い、一緒になって考えていくことの大切さを感じています。「ねえみちよって!」がその一つの機会になればうれしいですね。

**市長** 正直、松江は今まで子育て支援策を頑張っていて、一定程度、問題は解決したなと感じていたところに、再度こういった問題が出てきて、自分自身もどこかピンと来ていなかったのですが、この取材を通しての担当課との話し合いや皆さんとの意見交換で、**新しい子育て支援の在り方を再検討すべきだなと強く思いました。**少し何が出来るか、もう一度、担当課や民間事業者

の皆さん方や、現場で悩むお母さん方の声を拾って松江でも新しい子育て支援を考えていきたいと思えます。

**野津** 今日はみなさんありがとうございました。



ありがとうございました。



「産後、育児と家事に加えての保活(保育園入所のための情報収集や申請などの活動)で頭がいっぱいになることも、安心して相談できる所が多い」との声も多い。

